

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

《医療系》

●沖縄県立看護大学保健看護学研究科保健看護学専攻 「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

大学院の博士前期・後期課程の新領域保健看護分野に、新たに「島嶼保健看護」領域を設置し、島嶼看護の教育と研究を体系的に行う教育プログラムを構築した。島嶼保健看護領域の新科目として、博士前期課程に「島嶼保健看護特論Ⅰ・演習・実習・課題研究」「地域文化看護論」「多職種地域連携論」の6科目、ならびに博士後期課程に「島嶼保健看護特論Ⅱ・特別研究Ⅱ」「国際島嶼看護論」の3科目を設けて、島嶼看護の新たな学問領域を基盤とする教育・研究体制を構築した。さらに国内外から島嶼や島嶼看護に関する専門家を多数招聘し、学生の授業や教員のFD教育を実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・島嶼に在職中の看護職者を対象に教育プログラムの説明会を離島地域で開催し、離島地域で活躍できる看護職の人材確保に努めた。
- ・博士前期課程では、従来の実習4単位を専門看護師教育で求められている6単位以上にし、さらに従来課題研究8単位を4単位にすることで、より実践に重きを置いた単位配分を工夫した。
- ・学生の研修や実習は、グローバルな能力を養うために、県内の離島の島々や沖縄県に最も近いアジア太平洋地域(台湾・グアム・サイパン・テニアン) やリモート看護で最先端の豪州などで実施した。
- ・本学の看護系の全教授と島嶼看護に専門性が高い国内外の非常勤講師や島嶼地域で活躍している実践者をゲストスピーカーとして招聘し、学際的で専門性を重視した教員体制を構築した。
- ・島嶼看護は新たな学問領域であるため、随時講義を公開講義の形で学内外の教員に対してオープンにしたり、さらにFD講演会や国際シンポジウムなどを開催して、相互の学術的交流を行うことで教員の教育・研究指導能力の向上に努めるようにした。
- ・学内外の教員による講義資料や公開講義などの資料を資料集としてまとめて印刷物にして、教員や学生に配布し、教員間の授業内容の確認や学生の学習教材

として活用した。講演会の内容は講演者の許可を得て HP 上に公開し、いつでもアクセスできる学習環境をつくった。

- ・宮古島にサテライト教室を設置して、遠隔によるテレビ会議システムを導入し、地理的・時間的・経済的な障壁を考慮した遠隔教育体制と現地指導体制を融合した教育体制を構築した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・平成 21 年・22 年度入学者は、博士前期課程 4 名(宮古島 3 名、波照間島 1 名)、後期課程 3 名(本島) であり入学定員を充足した人数が得られた。また、科目履修生 2 名の受講があった。
- ・平成 24 年時では、博士前期の全学生 4 名が学位を修得し、本学の離島地域の実習指導教員や実践現場のリーダー的存在として活躍している。
- ・国内外の島嶼における研修や実習を展開することで、離島の保健看護の現状を相対的にみる目を養い、島嶼の共通点や相違点を見いだすことで島嶼の健康課題に結びつけた研究課題に取り組むことができた。
- ・授業や演習、研究で学習したことを統合して、在学中に研究成果を国内外の島嶼看護に関する学術集会で発表したり論文公表を行うことで、新たな学問領域である島嶼看護学の発信の基盤を築くことができた。
- ・毎回の授業評価や年に 2 回の教員と学生による意見交換会を行うことで、教育・研究指導体制の改善を行い、次年度の教育プログラムに反映することができた。
- ・学生による授業評価では満足度が非常に高く、また外部評価においても本大学の島嶼保健看護の育成プログラムの評価は高い評価であった。
- ・本事業終了後も教育プログラムの一部を改変しそれを継続している。現在新たに博士前期・後期課程の入学者が入学してきており島嶼における人材育成に今後も寄与できるのではと考える。
- ・この教育プログラムを発展させて、平成 23 年度に新たなる文部科学省の事業である「専門看護師・薬剤師等医療人材養成事業」として「島嶼における包括的専門看護師の養成プログラム」に着手しており、より高度な看護の役割拡大につなげるための教育プログラムの充実が期待できる。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

《医療系》

●沖縄県立看護大学保健看護学研究科保健看護学専攻

「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

社会人学生のための長期履修学生制度を新たに導入し、また、博士前期・後期課程の9つの新科目のすべてを土日開講や集中講義で実施することで、学業と就業が両立できるような学習環境の充実を目指した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

社会人学生が就業しながら学習できる環境を作るために、就業している管理者と在学生、教員とのコミュニケーションを密にし、可能な限り授業や研究活動が適切に遂行できるようにした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

長期履修学生制度を活用した学生もいたが、職場の勤務形態の配慮などがなされたため博士前期課程の学生に関しては2年間で全員修了することができた。本大学院の入学者の約9割は社会人学生であり、長期履修学生制度が導入されたことで、社会人学生のほとんどがその制度を活用しており、学生・教員ともに学習時間の確保と経済的支援体制の基盤になっている。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

E. 学習・研究環境の改善

④ ICT 技術を利用した遠隔教育の推進

《医療系》

● 沖縄県立看護大学保健看護学研究科保健看護学専攻

「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

宮古島にサテライト教室を新たに開設し、遠隔によるテレビ会議システムを導入し、新科目やそれ以外の科目の授業や演習、研究指導、公開講義などを遠隔で実施した。サテライト教室では本学と可能な限り同じ通信システムで文献検索や文献依頼がスムーズにできるようにした。さらに実習調整や各種会議、他大学との相互受講や学術会議の自由集会なども遠隔によるテレビ会議システムを活用した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

テレビ会議システムや遠隔通信による遠隔教育を実施するにあたって、学生や教員の IT に対する苦手意識を改善するために、遠隔教育に対するガイダンスや FD 教育などを随時開催した。遠隔受講や遠隔配信に対する留意点などを整理して学生や教員に周知できるようにマニュアル等の作成を行い HP に掲載し、随時参照できるようにした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

最初は通信システムによる遠隔教育が一部の教員のみでの活用に限られていたが、徐々に遠隔教育のメリットを知ることで、教員や学生による遠隔システムの活用が急激に増加した。他大学との遠隔システムによる相互受講などの開催が可能になり、他大学の学生と直接画面でリアルタイムで交流できる機会が得られることで学生の学びや交流の拠点が広がった。事業終了後も他大学との相互受講は継続されており、米国在住の著名な看護学者の講義もリアルタイムで聴けることが可能になったことで費用対効果の高い教育方法の展開につながっている。公開講義などを宮古島や他の離島地域の看護職に遠隔で配信することで、知的財産を幅広く普及させることにつながっており、離島地域の看護職から継続した配信希望があり、今後も継続した遠隔教育の普及に努めていきたい。新たな事業では、八重山の石垣島にテレビ会議システムの構築を予定しておりさらなる発展的な遠隔教育の普及が期待できる。